

2015 年 6 月 10 日
在グアテマラ日本国大使館

1. 内政

（1）選挙公示

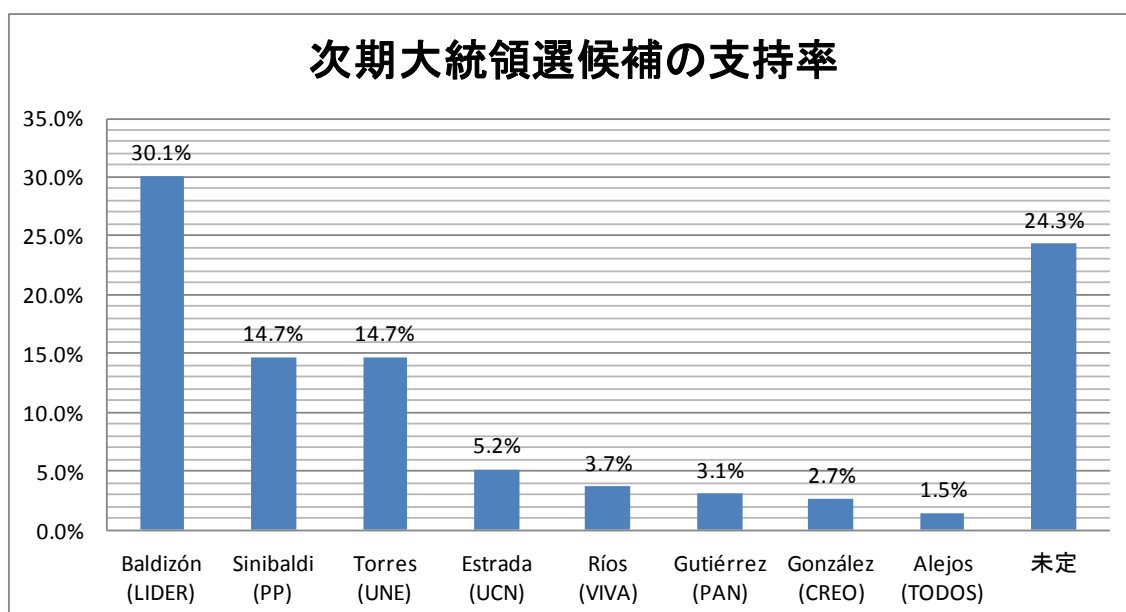
2 日、最高選挙裁判所は、大統領選、副大統領選、国会議員総選挙、中米議会議員選挙、地方選の公示を行い、選挙日を 9 月 6 日とする旨発表した。大統領選については、決選投票となった場合、10 月 25 日に投票を行う旨発表した。選挙には、計 24 の政党が参加する見込み。

（2）野党 LIDER の選挙キャンペーン開始

3 日、野党 LIDER は選挙キャンペーンを開始し、バルディソン同党大統領候補は、憲法改正、選挙及び政党に関する法の改正、起業推進、汚職撲滅、グアテマラ無処罰問題対策国際委員会（CICIG）の継続等を公約として掲げた。比例名簿では、ビジャテ党首が第一位、ラベ国会議長が第二位に指名された。

（3）次期大統領選に関する世論調査

4 日、プレサ・リブレ紙は、次期大統領選に関する世論調査を実施した（対象 1,200 名）。調査結果は下表の通り。なお、調査は 4 月 15 日～21 日に行われたため、税関における政府高官汚職事件（4 月 16 日）やシニバルディ与党愛国党大統領候補の離党（4 月 19 日）の影響が完全には反映されていない可能性があると同紙は説明している（注：シニバルディ候補は 6 月 3 日に立候補を取り下げた）。



(4) CICIG のマンデート延長

6 日、グアテマラ政府は、国連に対し、グアテマラ無処罰問題対策国際委員会 (CICIG) のマンデート延長にかかる要請書を提出した。21 日、グアテマラ外務省は、国連が同要請を受け入れた旨発表した。CICIG のマンデートは本年 9 月 4 日から 2 年間延長される。

(5) バルデッティ副大統領に対する予審手続き開始

6 日、最高裁判所は、税関における政府高官汚職事件にバルデッティ副大統領が関与していた可能性があるとして、予審手続き開始の判決を言い渡した。判決の理由として、同事件にかかる公聴会において、CICIG 及び検察庁が提出した事件の証拠資料 (通話記録) の中で、同副大統領の名前の頭文字「R」や「ラ・セニョーラ (女史)」、「ラ・ドス (2 番目)」といった文言が含まれている点を挙げた。

(6) CACIF によるバルデッティ副大統領辞任要求

6 日、CACIF (当国経団連) は、政府高官汚職事件への関与が疑われるバルデッティ副大統領に対して、辞任を要求した。ブリス CACIF 会頭は、グアテマラの民主主義の強化のためには、バルデッティ副大統領の辞任が重要であると述べた。

(7) バルデッティ副大統領の辞任

8 日、ペレス・モリーナ大統領は、緊急記者会見を行い、バルデッティ副大統領が同日辞任を表明した旨発表した。9 日、国会は、バルデッティ副大統領の辞任を承認した。米国大使館は、バルデッティ副大統領及び息子 2 名の発給済み査証を無効とした。

(8) 新副大統領の就任

14 日、国会において、ペレス・モリーナ大統領が国会に諮っていた候補の中から、マルドナド憲法裁判所 (CC) 判事が副大統領に選出され、同日、副大統領に就任した。マルドナド判事は、9 日に辞任したバルデッティ副大統領の後任として、来年 1 月まで副大統領を務める。

(9) エネルギー鉱山大臣の辞任

15 日、ペレス・モリーナ大統領は、汚職への関与の疑いにより、アルチャーラ・エネルギー鉱山大臣の辞任を発表した。後任として、ロダス・エネルギー鉱山次官を任命した。

(10) 与党愛国党の大統領候補指名

与党愛国党 (PP) は、同党の大統領候補であったシニバルディ氏の離党に伴い、大統領候補の選定を行っていたが、17 日、同党の臨時党大会において、ジャーナリストのガルシア氏を大統領候補に指名した。また、副大統領候補として、グラマホ党首を指名した。グアテマラ市長候補には、デ・レオン前資産登記所代表を指名した。

(11) 社会保険庁長官及び中央銀行総裁の逮捕

20 日、デ・ディオス社会保険庁 (IGSS) 長官及びスアレス・グアテマラ中央銀行 (Banguat) 総裁を含む計 17 名が、社会保険庁とメキシコの製薬会社 PISA 社との不正契約に関与した疑いで逮捕された。

(1 2) 閣僚の交代

21 日、ペレス・モリーナ大統領は、ロペス・ボニーージャ内務大臣、マルティネス環境大臣、ロダス・エネルギー・鉱山大臣及びアンスエト情報戦略庁長官の辞任を発表した。ペレス・モリーナ大統領は、22 日、メンディサバル内務次官を内務大臣に、26 日、メディニージャ環境次官を環境大臣に任命した。

(1 3) ポルティージョ元大統領の動向

プレサ・リブレ紙によれば、資金洗浄の罪により米国で収監され、本年 2 月に刑期を終えて帰国したポルティージョ元大統領に対して、75%の国民が好意的に受け止めており、特に地方部（77%）において人気が高い。次期国会議員総選挙では、みんなの党（TODOS）から立候補する予定（同党の比例候補名簿第一位）。

2. 外交

(1) 関税同盟

フローレス経済次官によれば、本年 12 月に発足を予定しているグアテマラ及びホンジュラスの関税同盟に関する議定書の法案が 7 日時点で国会に提出されておらず、国会承認が得られなければ、発足期限に間に合わない可能性がある」と指摘した（なお、前期国会は、5 月 15 日に閉会）。

(2) 韓国外務次官のグアテマラ訪問

15 日、グアテマラを訪れた趙・韓国外務次官は、モラレス外務大臣と会談を行い、二国間関係について協議した。また、趙外務次官がグアテマラ訪問中に開催した第 3 回グアテマラ韓国政治協議メカニズム会合及び SICA・韓国「対話と協力」フォーラム（次官級会合）について意見交換した。

(3) 宇都外務大臣政務官のグアテマラ訪問

24～26 日、宇都外務大臣はグアテマラを訪れ、第 2 回日・中米ビジネスフォーラムに出席した（後述の経済（5）参照）。また、25 日にペレス・モリーナ大統領を表敬した他、24 日にモラレス外務大臣、25 日にデ・ラ・トーレ経済大臣と会談し、二国間関係や国際場裡における協力について意見交換した。

(4) ベリーズとの国境問題

25 日、モラレス外務大臣及びエルリントン・ベリーズ外務大臣は、両国の国境問題に関する特別合意（2008 年）にかかる議定書に署名した。両国にとって都合の良い日に別々にまたは同時に、本件国境問題を国際司法裁判所（ICJ）に付託することの是非を問う国民投票を実施することで合意した。署名に際し、インスルサ米州機構（OAS）事務総長（同日、任期満了に伴い辞任）が証人として同席した。

(5) インド外相のグアテマラ訪問

28 日、クマール・インド外務大臣がグアテマラを訪れ、モラレス外務大臣と会談を行った。同会談において、モラレス外務大臣は、在インド・グアテマラ大使館の開設について

満足の意を表した。また、両国の外交旅券・公用旅券保持者の査証免除について合意した。

(6) 米州機構事務総長のグアテマラ訪問

28日、アルマグロ米州機構（OAS）事務総長がグアテマラを訪れ、ペレス・モリーナ大統領と会談を実施した。ペレス・モリーナ大統領は、グアテマラの状況及び公共機関における業務改善について説明した上で、アルマグロ OAS 事務総長が初の外遊先としてグアテマラを選んだことに感謝の意を表した。アルマグロ OAS 事務総長は、モラレス外務大臣及びエルリントン・ベリーズ外務大臣と両国の国境問題について協議した。

3. 経済

(1) 電力政策における課題

グアテマラの電力源における再生可能エネルギーの占める割合は、2007 年の 50%から 2014 年の 65%に引き上げられ、最終消費者が負担する電力料金の低下を実現した。一方、ウリサル国家電力委員会（CNEE）委員長は、電力カバー率の向上及び公共照明の消費効率化が今後の課題であると説明した。

(2) 銀行業の好調な業績

銀行監督庁の発表によれば、本年第一四半期の銀行業全体の業績（利益）は、前年同期比で 26%上昇した。また、市場における流動性の高まりにより、同期の貸出金融資産は 12%上昇した。

(3) グアテマラ企業団のインド訪問

グアテマラ輸出業協会（Agexport）によれば、5 月中旬、グアテマラ企業団がインドを訪問した。インド市場開拓のため、企業団は、インドのニューデリー、ムンバイ、ノイダ等の都市を訪れた。グアテマラは、カルダモンや鉱物をインドに輸出し、コールセンターのサービスも提供している。

(4) 観光客の増加

観光庁の発表によれば、本年 1 月～4 月に当国を訪れた観光客数は、77.2 万人に達し、前年同期比で 3.7%増加した。

(5) 第 2 回日・中米ビジネスフォーラムの開催

25～26 日、グアテマラ市において、第 2 回日・中米ビジネスフォーラム（II Foro de Negocios Japón-SICA）が開催された。同フォーラムでは、「中米統合の現状と見通し」、「日本企業の重視する点」、「中米の貿易投資政策」、「中米各国のインフラ政策」、「観光セクターにおけるビジネスチャンス」等のセッションが行われた他、ビジネス・ミーティングのスペースやブース会場が設けられ、日本・中米双方の企業の交流が行われた。日本側は計 52 社（110 名）、中米側は計 153 社（298 名）が参加し、盛り上がりを見せた。

◇主要経済指標◇

	2015年			2014年	2013年
	5月	4月	3月		
インフレ率（前年同月比）	未発表	2.58%	2.43%	2.95%	4.39%
貿易収支（百万ドル）	未発表	△485.7	△520.5	△7,475.6	△7,493.1
輸出（百万ドル）	未発表	942.3	1,011.2	10,805.5	10,024.8
輸入（百万ドル）	未発表	1,428.0	1,531.7	18,281.1	17,517.9
外貨準備高（百万ドル）	7,649.8	7,721.3	7,770.3	7,333.4	7,272.6
外国からの送金（百万ドル）	519.0	503.9	556.5	5,544.1	5,105.2
為替レート（対ドル月平均）	7.69	7.69	7.63	7.73	7.86

（出所：中銀、国立統計局）

注）2013 年及び 2014 年の為替レートは年平均

4. 治安・社会

（1）選挙期間中の犯罪

ブルノリ国連人権高等弁務官事務所グアテマラ代表は、選挙に関わる暴力の増加への懸念を示した。ブルノリ代表は、「選挙期間中に暴力を行わない旨の政党間合意がなされているが、同合意を維持すべきであると主張しなければならない」と述べた。

（2）大規模デモの発生

16 日、ペレス・モリーナ大統領の退陣を求めるデモが発生し、約 6 万人がグアテマラ市の憲法広場に集まり、政府高官による汚職に対して抗議した。

（3）パス・イ・パス前検事総長に対する学位授与

17 日、米ジョージタウン大学は、パス・イ・パス前検事総長に対して、名誉博士の学位を授与した。同大学は、パス・イ・パス氏が検事総長時代に取り組んだ女性に対する犯罪防止や捜査、犯罪集団の起訴等の功績を称えた。

（了）